小特集 奈良教育大学附属小学校の教育介入に抗して

奈良教育大学附属小学校の教育実践は「みんなの願いでつくる学校」として知られている。その教育実践が学習指導要領通りでないということだけで「不適切」と攻撃されている。

そもそも学校の教育課程は、子どもや地域の実態をふまえ、各学校で編成するものである。さらに、国立大学附属学校は教育学研究の役割とともに、現行の学習指導要領にどのような問題点があるか、検討を加える使命もある。

奈良教育大学が実施した附属小学校の教員の同意のない強引な「出向人事」は、これまでの豊かな教育実践を理不尽に踏みにじる不当なものだ。

今回の問題の背景として、国立大学の独立行政法人化により、各大学の運営費交付金が削減されるとともに、先の国会で成立した国立大学法人法の改定により、一段と政府が大学の自治への介入を強める動きとの関連もうかがわれる。

文部科学省の奈良教育大学附属小学校の教育介入問題について、その経過と背景、そしてその誤りを明らかにするとともに、今回の問題を「戦争するひとづくり」と関連づけて考えたい。

（編集部）